

《沖縄のつどい 2024》

沖縄から見える日本 ～この国は戦争へと向かうのか～



講演

講師 明 真南斗さん
(琉球新報記者)

『軍事要塞化が進む琉球弧の今』

報告・・・牛島貞満

1959年宮森小ジェット機墜落事件について



日米共同訓練（徳之島）での陸自水陸両用車

沖縄・琉球弧には多くの米軍基地だけでなく、ここ数年で次々に自衛隊基地が作られ、ミサイルが配備され、まるで「軍事要塞」のようになっています。石垣島には、アメリカの掃海艇や駆逐艦が入港し、公道を戦車が走り、「ここは戦場か」と思うような光景が現出しています。何かあれば、戦争につながる、一触即発の状態を次々に作っていて、日本の行く道をも暗示しています。今、私たち一人ひとりの意思表示が問われています。

7月17日（水） 開演 18:30～20:40（18:00開場）

会場：明治学院大学白金キャンパス 本館2階 1201教室

資料代：500円（学生・明治学院大関係者 無料）

※ 定員190名 事前申し込み不要、直接会場にお越しください。

主催：沖縄のつどい実行委員会（宮森・630を伝える会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、公益財団法人原爆の図丸木美術館、ピース・ニュース、平和を実現するキリスト者ネット）

共催：明治学院大学国際平和研究所 賛同：公益財団法人東京YWCA、沖縄戦首都圏の会、沖縄平和ネットワーク首都圏の会、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック

基地がある限り、

安全な日はこない！

(キーストン提供)



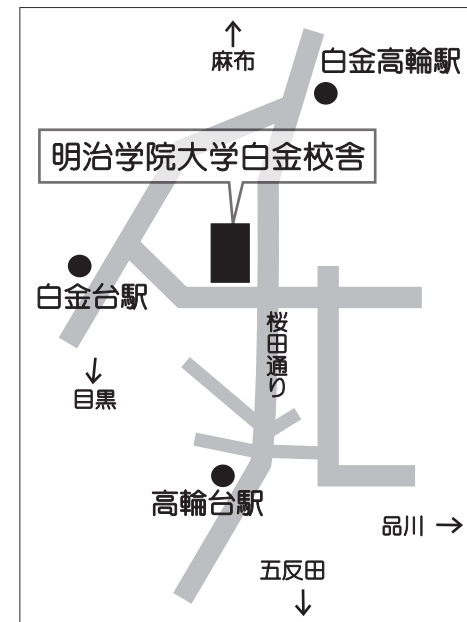
沖縄・宮森小学校 米軍ジェット機墜落事件

子どもたちがいる教室に、米軍機が突っ込んでくる、そんなことをあなたは想像できますか？

65年前の1959年6月30日、嘉手納基地を発進した米軍のジェット戦闘機は、沖縄県うるま市（旧石川市）の住宅地に墜落炎上し、機体の一部が宮森小学校の教室に突っ込みました。死者18名（児童11名、住民6名、さらに児童の1名が大学入学後に後遺症で亡くなる）、負傷者212名（児童156名、職員2名、住民54名）、小学校、公民館、民家25棟が全半焼。——米軍による最大の基地被害の事件です。普天間や嘉手納をはじめとする基地と隣り合わせの生活が、いかに危険なのかをこの事件が教えてくれます。沖縄の「本土復帰」から32年後、2004年沖縄国際大学米軍

ヘリ墜落の際もまるで米軍政下時と同じように、米軍による現場の封鎖が行われました。その後も、普天間基地所属のオスプレイが名護市安部の沿岸に墜落したり、米軍機の部品が保育園や小学校に落とされたりしています。沖縄に限ったことではありません。昨年11月には横田基地所属のオスプレイが鹿児島県屋久島沖に墜落し、死者・行方不明者8人の大事故を起こしています。首都圏でもオスプレイの離着陸や羽村市の中学校の校庭へのパラシュート落下などがあり、大きな事故が起こる可能性は、日本中いつでもどこでもあるのです。

会場



「白金台駅」2番出口

「白金高輪駅」1番出口

「高輪台駅」A2出口 徒歩7分

連絡先：090-1837-4579（松本）

E-mail

hyoteki.sagamihara@gmail.com

《明 真南斗（あきら・まなと）さんのプロフィール》

沖縄県那覇市出身、1991年生まれ。早稲田大卒業後、2014年から琉球新報記者。普天間飛行場を抱える宜野湾市の取材や基地問題全般を担当。22年4月から東京支社報道グループで主に防衛省を取材。取材班の一人として日本ジャーナリスト会議(JCJ)の第66回JCJ賞、第28回新聞労連ジャーナリズム大賞の優秀賞。